

こゝに耕すやま充分の家族勞力を有しないものに依然相
當な面積を手放さない者があつた。かゝる職工農家は専
ら農業に對する熱心さと缺乏動機が自己本位に陷
り産米供出等に関りて一徹農民と往々悶着を起す場合
があつた。それ故土地の公的管運をこの邊まで及ぼし、
かゝる農家の耕作面積は家族の勞力等を斟酌して或る
制限を加へ、これによつた土地の一部を前述した菜園等
に轉用すると共に、農業生産に充分の力を致し得ない
職工農家に對りては何等かの標準に従つて倉糧の供出
から免かれしめることと必要である。蓋し、專業農家
惹いては農民一般が工場に對りて抱く感情は農地買収
等の問題を別とすれば彼等の間から日々通勤する職工

農家や人夫日傭等の生活行動等に基いて形成されるこ
と大なる比喩があり、生活に於ける農工の不均衡感を
消滅せしむることは農工調整上重要な眼目である。